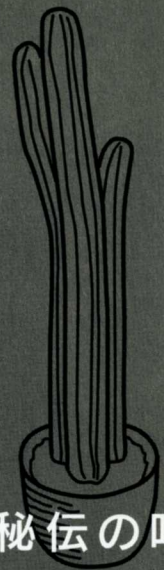


生きもの  
博物誌  
【サボテン】  
ペルー



秘伝の味

山本 睦  
(やまもと あつし)

総合研究大学院大学文化科学研究科

サン・ペドロと儀礼

ペルー北部の小さな村。満天の星と月明かりの下に響く、シャーマンの歌声と鈴の音。深夜の儀礼で使われるメサとよばれる祭壇の脇に、たつぷりと用意されている液体の正体がサン・ペドロというサボテンである。これだけ聞くとかなり怪しいが、ペルーでは多くの儀礼に使用されるため、ポピュラーな植物であり、市場などでも簡単に手に入る。また、その歴史も古く、紀元前の遺跡の石彫にサン・ペドロの姿を見ることが出来る。

儀礼のための準備はいたってシンプルで、水にサン・ペドロを入れ、煮出すだけである。重要なのは時間帯で、サン・ペドロが開花するといわれる夜10時には全てを終えていなければならない。面白いことに、準備のシン

ブルさに反して、できあがったサン・ペドロの味は、それを作るシャーマンによって個人差がある。基本的にはどこしが悪いうえ、苦味も強く、飲むと吐き気をもよおすともいわれる。ただし、シャーマンによれば、「清め」になるので嘔吐するのはいいことらしい。文字どおり体のなかをきれいにするのである。

シャーマンの儀礼の効果は、基本的に「癒し」である。シャーマンのもとには、人間関係、恋愛、病気や商売に悩む人などが訪れる。そこで、シャーマンは儀礼を通じて、特にサン・ペドロが見せる幻覚作用の内容について参加者と会話をしながら、問題の解決を図っていくのである。わたしが儀礼に参加させてもらったシャーマンらによると、彼らが信仰するのは山や湖、遺跡などで、儀礼の際にはそれらが力を貸してくれるという。しかし、彼ら

は敬虔なキリスト教徒でもある。よって個人差も大きい。儀礼に使用される祭壇には、十字架やキリスト教の聖人の置物から刀、ライフル、形状や色彩の特徴的な石、遺跡から掘り出された石器など多彩なものが並ぶ。

シャーマン一家との楽しみ

これまで、親子関係にある、この地域では有名な二人のシャーマンの儀礼に参加する機会があった。わたしはこのシャーマン一家とのつきあいはかれこれ四年になるが、彼らとのつきあいは儀礼だけではとまらない。村では一緒に食事をしたり、酒を酌み交わしたり、馬鹿話をする仲間でもある。

以前、発掘をおこなう遺跡で、調査の無事を祈って儀礼をおこなった。このとき、わたしにこれまでサン・ペドロによる幻覚や嘔吐の経験がないことをよく知る二代目のシャーマンが、にやにやしなから近づいてきて、ある液体を手渡した。特殊なサン・ペドロだというのが、明らかに原液に近い。飲んでみたのはいいが、さすがにこれには耐えられず、苦しんでいるわたしの横で二代目は声をあげて楽しそうに笑っていた。

ところで、儀礼にはシャーマンと儀礼の依頼者のほかにアシスタントも参加している。彼らは、儀礼の準備から後片付けまでをシャーマンとともにし、ときにはシャーマンに代わって、参加者に儀礼手順の説明をしたりするなど、儀礼には欠かせない存在である。じつは、現在、この儀礼のアシスタントを二代目の子どもにあたる若者がおこなっている。小さなころからいつも儀礼に参加していたそう、彼は既に儀礼を熟知している。こうやってシャーマンになっていくのかとも思ったが、事態はそう簡単ではないらしい。シャーマンになるにはきちん

とした修練をつまなければいけないし、何より才能が必要らしい。

ヤーマンになる気があるのかどうか訊ねてみた。「そのときになってみないとわからないよ」と、彼はわたしに笑いながら答えた。もし、三代目のシャーマンが生まれ

たときは、儀礼に参加し、親子三代にわたるサン・ペドロの飲み比べでもしてみようと思う。フィールドでの楽しみが、またひとつ増えた。

市場で売られるサン・ペドロ (中央手前)



2代目の儀礼のアシスタントをする3代目(右)?



儀礼をする初代シャーマン



原液に近いサン・ペドロを恐る恐る飲む筆者



儀礼に使用される祭壇。左の一斗缶の中身がサン・ペドロ

サン・ペドロ・サボテン (学名: *Trichocereus pachanoi*)

メスカリンを含有し、個人差や服用時の精神状態、環境状況にもよるが、服用すると幾何学模様などの幻覚作用をもたらすサボテン。ペルーなどアンデス地域では、広く、シャーマンの儀礼に用いられる。名前のサン・ペドロはスペイン語でキリスト十二使徒の一人で、天国の鍵を与えられたという「聖ペテロ」を意味している。これは同様に、サン・ペドロが、その幻覚作用により、異世界への道を拓くものとされているからである。

